

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)



金沢医科大学氷見市民病院

目 次

事業計画に対する達成度	1
-------------	---

【全部門重点課題】

① 全教職員の働き方改革の実践	2
② 新型コロナウイルス感染症への対応・対策	2
③ 経費削減の推進（特に節電・節水）	3

【重点事業】

1 氷見市との協定改正に係る協議の推進	4
2 医療スタッフの確保対策	4
3 初期臨床研修医の確保	5
4 病院機能の見直し	5
5 地域医療連携の推進	6
6 医事システムの更新	6
7 施設基準取得等による增收対策の推進	7
8 回復期リハビリテーション病棟患者数の増加	7
9 へき地巡回診療の継続	7

【その他の年度事業】

(1) 氷見市との連携事業	9
(2) 経営管理指標	9

【決算書】

損益計算書及び貸借対照表	10
--------------	----

氷見市民病院

重点事業
全 9項目中

- A : 1項目 (11%)
- B : 4項目 (44%)
- C : 4項目 (44%)
- D : 0項目
- E : 0項目

その他の年度事業
全 11項目中

- A : 2項目 (18%)
- B : 2項目 (18%)
- C : 5項目 (45%)
- D : 2項目 (18%)
- E : 0項目 (0%)

- A : 計画目標を達成できた (100%達成)
- B : ほぼ達成 (70~99%)
- C : 半分程度の達成 (40~69%)
- D : 一部達成 (10~39%)
- E : 事業の延期・中止等 (0~9%)

全部門重点課題

① 全教職員の働き方改革の実践

(令和4年度 氷見市民病院部門における取組)

- ・ 現在の就業管理システムを各所属長が就労管理できるようシステム改修を行い、各部署に対し業務の効率化、適正人員の配置など取り組みを指導、超過勤務時間の縮減を図る。
- ・ 2024年4月施行の医師の働き方改革に沿った、体制を整備する。
- ・ 年5日以上の有給休暇取得に対し、取得率100%を図る。
- ・ 職員満足度調査を実施し、結果を分析することにより職場環境の改善を図る。

(各部門における達成状況)

- ・ 就業管理システムを改修し、WEBから超過勤務や休暇の申請を行う仕組みを作り、事務員、コメディカルで運用した。
- ・ 病院全体の超過勤務時間数（令和4年度）
令和4年度：33,270時間（前年比10.3%減、▲3,838時間）
- ・ 職員の年5日以上の有給休暇取得率：97.3%
- ・ 令和4年12月に職員満足度調査を行い、調査結果を分析している。

② 新型コロナウイルス感染症への対応・対策

(令和4年度 氷見市民病院部門における取組)

- ・ 感染状況を踏まえた活動指針の見直しと周知を図り、標準予防策の徹底および3密回避により感染防止を図る。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関わる職員の待遇改善対応を継続する。
- ・ 新型コロナワクチン接種、感染陽性患者の受入など、氷見市・高岡医療圏の地域医療に貢献する。

(各部門における達成状況)

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応・対策が必要な場合には、迅速にCEO・病院長ミーティング及びコロナ対策チーム会議を開催した。会議で検討した結果は速やかに全職員に周知徹底することで、院内クラスターを最小限に止めた。
- ・ 处遇改善として令和4年2月から令和4年9月まで全職員に一人当たり月4千円を支給し、看護職に約695万円、看護職以外には約755万円の手当を支給した。令和4年10月から令和5年3月までは、看護職に一人当たり10,000円、それ以外の職種には、職種を限定して一人当たり4,000円を支給した。看護職は約1,178万円、看護職以外に約321万円の手当を支給した。
- ・ ワクチン接種数

個別接種 4,650 人（前年▲5,223 人） 集団接種 8,664 人（前年▲1,391 人）

- ・ 令和 4 年 2 月から 3 回目接種、7 月から 4 回目接種、10 月から 5 回目接種を開始した。また、1・2 回目の未接種者と乳幼児（6 カ月から 6 歳未満）の 1～3 回までの接種は氷見市内では当院のみが対応しており、全接種者を対象にした体制を強化し継続している。
- ・ コロナ陽性患者入院患者数実患者数 156 人（前年+89 人）

③ 経費削減の推進（特に節電・節水）

（令和 4 年度 氷見市民病院部門における取組）

- ・ ジェネリック薬品の採用推進（数量シェア 90%）、医療材料等の購入の適正化を図り、医療経費の削減を図る。
- ・ 職員への節電・節水の推進活動および既存機器の省エネルギー化及び高効率機器への計画的な更新などを行い、光熱水費（量）を削減する。

（各部門における達成状況）

- ・ 後発品数量シェア：92.4%（年）
- ・ 昨年度から医薬品メーカーの業務停止や出荷調整等が相次ぎ、対応に苦慮しているが、シェア率 90%以上を達成し、後発医薬品使用体制加算 1 の算定を確保した。
- ・ 医療材料等検討委員会を通じ、安価な新規医療材料を 16 件採用し、合計 2,644,000 円の支出削減を行った。
- ・ 診療運営検討委員会にて省エネルギーラウンドを実施。また、院内における照明や空調の設定変更及び職員への省エネルギー活動への啓発を行った。なお、令和 4 年度の電気使用量は過去 4 年間で一番低い使用量となった（前年比 0.4% 減の 4,903,368kWh）。

氷見市民病院重点事業

1 氷見市との協定改正に係る協議の推進

(達成度) C

(事業目的・背景)

本学は2008年に指定管理者として氷見市民病院の運営を開始した。指定管理期間は2028年3月31日までの20年間となっており、本学が21年目以降も継続して指定管理するためには、2025年度までに氷見市と基本協定の締結が必要となる。金沢医科大学が21年目以降も継続して氷見市民病院を指定管理していくうえでは、管理運営に関する基本協定などを見直すことは必須である。

※指定管理期間：2008年4月1日～2028年3月31日 指定管理期間

2026.3.31までに再度、基本協定締結必要

2022～2025年度で見直し必要

(令和4年度事業の内容)

氷見市民病院の管理運営に関する基本協定および氷見市民病院の管理運営に関する細目協定の問題点を洗い出す。

(達成状況)

指定管理を続けるための課題について、個別項目の検討を進めた。今後、総括表としてまとめ、委員会等で具体的に検討する。

2 医療スタッフの確保対策

(達成度) B

(事業目的・背景)

定員を満たしていない看護師・薬剤師の確保や機能充実のため医療スタッフの補充を行う。

(令和4年度事業の内容)

- ・ 学校訪問の実施
- ・ 実習生の受け入れ（本学看護学部および他学）
- ・ 募集説明会への参加
- ・ ホームページの刷新
- ・ 大学との連携

(達成状況)

【採用・内定者数】

- ・ 看護師 19人（パート1名含む）
- ・ 看護補助員 1人
- ・ 臨床検査技師 1人
- ・ 理学療法士 2人
- ・ 作業療法士 1人

- ・ 臨床工学技士 1 人
 - ・ 歯科衛生士 1 人
 - ・ ソーシャルワーカー 1 人
 - ・ 事務員 2 人
- ※薬剤師・言語聴覚士の採用なし

3 初期臨床研修医の確保

(達成度) B

(事業目的・背景)

当院及び地域における医療の担い手となる若手医師の育成・確保を図る。

(令和4年度事業の内容)

- ・ 本学医学部第5学年の臨床実習の実施
- ・ 医学生の病院見学実施
- ・ 募集説明会への参加
- ・ ホームページの刷新
- ・ 指導医の育成

(達成状況)

- ・ 初期臨床研修医 1 人
- ・ 本学のたすき掛け 2 人 (1年間)

4 病院機能の見直し

(達成度) C

(事業目的・背景)

通所リハビリテーション（介護保険）の見直しによる急性期医療体制の充実を図る。

(令和4年度事業の内容)

通所リハビリテーションのあり方、必要性を再検討のうえ、通所リハビリテーションの配置人員と受入れ患者数を見直し、急性期リハビリへのセラピストの配置を手厚くすることにより増収を図る。

(達成状況)

- ・ 年度初めより病休や退職者が発生し(3名減)、コロナ陽性者、濃厚接触者による自宅療養者が増え、計画的な職員配置ができなかった。
- ・ コロナ禍において介護施設との併用利用が控えられたため実績数の減少がみられた。
- ・ 院内でコロナ感染患者が増加し、リハビリ対象患者の減少やセラピストの病休が増加したため減収となった。
- ・ リハビリ実績 算定額:423,210 千円 (前年▲22,776 千円)
R4 平均単位数 ; 144,076 単位 (▲10,160 単位)

(月平均でセラピスト 2.3 人分の減単位に相当する)

5 地域医療連携の推進

(達成度) C

(事業目的・背景)

地域の中核病院として「急性期・回復期・維持期（慢性期）」の医療体制の維持と充実を図り、地域の医療機関との連携、支援体制の構築を図る。

(令和 4 年度事業の内容)

- ICT を活用した入退院支援と地域との協働
退院後、地域の医療機関と連携するために ICT を活用し計画的なカンファレンスを行い、さらなる連携強化を図る。
- 高岡医療圏地域医療連携システムの新規導入
厚生連高岡病院、高岡市民病院、済生会高岡病院、射水市民病院、および医師会（氷見・高岡）との連携を図る。

【導入経費】 2,800 千円

(達成状況)

- 氷見市医師会、氷見市包括支援センターと連携し、医療介護の連携アプリ「バイタルリンク」を 3 月に導入した。今後は、各医療・介護機関へ運用規程を通知し、利用を促して連携強化を図る。

【年間実績】

退院時共同指導料 42 件

他機関連携加算 0 件

- 今後はシステムの利用方法などを院内に周知して、高岡医療圏での連携を図るための運用を構築する。

6 医事システムの更新

(達成度) A

(事業目的・背景)

保守、サポート期間が経過し、診療報酬改定時に対応困難なため更新する。

(令和 4 年度事業の内容)

医事会計システム（POS レジンシステム含）の更新

【導入経費】 110,000 千円

(達成状況)

9 月から医事システム更新に向けた担当者会議を開始し、2 月には新医事システムへの移管が終了した。

7 施設基準取得等による增收対策の推進

(達成度) B

(事業目的・背景)

施設基準の新規取得と格上げ更新し、収入増を図る。

(令和4年度事業の内容)

- ・ 医師事務作業補助体制加算の（40 対 1）への格上げ
医師の働き方改革の一環として医師事務作業補助者を1人増員し50 対 1から40 対 1へ格上げし、医師の業務軽減を図る。
- ・ 在宅療養後方支援病院の新規届出
在宅療養患者の急変時に応じるために、開業医と事前登録を行い、近隣医療機関との強固な連携を図る。

(達成状況)

- ・ 9月から算定開始（40 対 1）した。
- ・ 在宅療養後方支援病院の新規届出を行うために、院内での調整が必要であることが分かったため、院内で運用方法等を検討し、届出が可能かを再検討する。

8 回復期リハビリテーション病棟患者数の増加

(達成度) C

(事業目的・背景)

一般病棟からの転棟や地域医療機関からの患者確保に向け、対策を充実させ、患者数・病床利用率・重症者割合の向上を目指す。

(令和4年度事業の内容)

一般病棟入棟時より主治医へ転棟の検討を依頼し、回復リハ病棟への転棟の意識付けを行う。また、高岡医療圏等において地域医療連携部を通して、転院の働きかけを行う。

(達成状況)

コロナ禍において手術数が減少したため、回復期対象患者が減った。また、高岡医療圏からの転院が少なかった。

【年間実績】1日平均患者数 37.1人/日 病床稼働率 75.7%

9 へき地巡回診療の継続

(達成度) B

(事業目的・背景)

氷見市の基幹病院として、医療資源の少ない中山間部の医療確保と慢性期疾患患者の医療の継続が図れるよう定期的に地域へ訪問し、医療提供を行う。

(令和4年度事業の内容)

年々、過疎化し地域内の人口減少が減少する中で、独居・高齢者世帯が住み慣れた地域で

安心して暮らせるよう継続的に訪問し、医療や介護福祉の提供を行う。

(達成状況)

対象地区の人口減少、高齢化による施設入所等で対象患者が減少しているが、定期的な巡回診療を継続している。特に高齢独居の住人に対して、地域の世話人の協力を得ながら受診に繋ぐことで医療介護の介入を図っている。

【年間実績】巡回 8 地区 84 日間 (▲5 日)

その他の年度事業

(1) 氷見市との連携事業

(事業目的・背景)

氷見市民病院の健全な管理運営のために、氷見市と連携を図る。

(令和4年度事業の内容)

- ① 更なる公立病院改革プランの実施（達成度）D
- ② 病院施設の長寿命化計画の策定（達成度）A
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策補助金の確保（達成度）B
- ④ 医師・看護師等医療従事者の人材確保（達成度）B
- ⑤ 政策的医療交付金等の内容の精査（達成度）C

(達成状況)

- ① 公立病院改革プランをバージョンアップさせた公立病院経営強化プランの作成を開始した。
- ② 氷見市と協議し、病院施設の長寿命化計画を策定した。
- ③ 富山県および氷見市と打ち合わせをしながら申請を行い、令和4年度は交付金・補助金が約450,000千円、コロナ関係補助金が約350,000千円で、計約800,000千円となつた。
- ④ 处遇改善として令和4年2月から令和4年9月まで全職員に一人当たり月4千円を支給し、看護職に約695万円、看護職以外に約755万円の手当を支給した。令和4年10月から令和5年3月まで看護職に一人当たり10,000円、それ以外の職種には、職種を限定して一人当たり4,000円を支給した。看護職は約1,178万円、看護職以外に約321万円の手当を支給した。
- ⑤ 令和4年度の氷見市看護学生修学資金貸与制度による申請者は7人であった。
(1年生：6人 4年生：1人)
薬剤師確保対策として、氷見市と協定を締結している名城大学の薬学生対象に当院および金沢医科大学病院薬剤部の見学ツアーを実施し、44名の学生が参加した。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策に係る医療従事者の特殊勤務手当の支給対象者にリハビリ技師および臨床工学技士を追加し、令和4年分26,222,000円を確保した。

(2) 経営管理指標

		目標	達成状況	達成度
入院診療	一般病棟 平均在院日数	17日	17.8日	<u>C</u>
	新入院患者数 入院患者数（回復期含む）	12人／日 195人／日	8.7人 176.6人	<u>C</u>
	病床利用率 一般病棟 回復期リハ病棟 重症度・医療・看護必要度	80%以上 80%以上 28%以上	69.4% 75.7% 30.4%	<u>C</u>
外来診療	患者数	510人／日	527.1人／日	<u>A</u>
	患者紹介率	37%以上	25.6%	<u>D</u>
医療収入	医療収入	51億8千万円	49億3千万円	<u>C</u>

令和4年度金沢医科大学氷見市民病院 损益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

医業収益

医業収益は、前年比5千1百万円増の50億7千9百万円となりました。うち、入院収益は前年比8百万円減の31億7千4百万円、外来収益は前年比5千6百万円増の18億3千2百万円です。

医業費用

医業費用は、前年比6千6百万円増の56億4千2百万円で、うち、材料費が前年比1千4百万円増の13億1千7百万円、給与費が前年比9百万円増の31億4千8百万円、委託費は6億4千1百万円、設備関係費が1億2千1百万円、その他の経費で2億7千2百万円、氷見市へ支払う指定管理者負担金は前年比2百万円増の1億4千3百万円です。

医業外収益

計8億1千1百万円で、うち氷見市からの交付金など補助金収益は前年比5千3百万円増の8億4百万円で、新型コロナウイルス感染症に係る補助金3億6千9百万円が含まれています。

経常収益

以上の損益計算の結果、経常利益は2億4千4百万円となりました。

《損益計算書》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額			金 額	
医業収益	5,079	51	医業費用	5,642	66
入院収益	3,174	▼8	材料費 給与費	1,317	14
外来収益	1,832	56	委託費	3,148	9
受託事業収益	55	1	設備関係費	641	28
施設設備利用収益	18	2	経費	121	▼22
			指定管理者負担金	272	35
				143	2
			医 業 利 益	△ 363	▼15
医業外収益	811	54	医業外費用	4	4
寄付金収益	2	1	補助金返還金	4	4
補助金収益	804	53			
雑益	5	0	經 常 利 益	244	35

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額			金 額	
流动資産	1,350	330	流动負債	677	37
現金及び預金	4	▼12	未払金	168	39
未収入金	1,312	347	預り金	50	▼1
徴収不能引当金	△ 7	▼2	貸与引当金	159	▼1
貯蔵品	37	▼3	その他	0	0
その他	4	0	固定負債	687	2
固定資産	32	5	退職給付引当金	687	2
工具器具備品	234	10	負債の部合計	1,364	39
減価償却累計額	△ 202	▼5	純資産	18	296
車輛	2	▼2	元入金	232	52
減価償却累計額	△ 2	2	利益剰余金	△ 214	244
資 産 の 部 合 計	1,382	335	純資産の部合計	18	296
			負債・純資産合計	1,382	335

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額			金 額	
流动資産	1,350	330	流动負債	677	37
現金及び預金	4	▼12	未払金	168	39
未収入金	1,312	347	預り金	50	▼1
徴収不能引当金	△ 7	▼2	貸与引当金	159	▼1
貯蔵品	37	▼3	その他	0	0
その他	4	0	固定負債	687	2
固定資産	32	5	退職給付引当金	687	2
工具器具備品	234	10	負債の部合計	1,364	39
減価償却累計額	△ 202	▼5	純資産	18	296
車輛	2	▼2	元入金	232	52
減価償却累計額	△ 2	2	利益剰余金	△ 214	244
資 産 の 部 合 計	1,382	335	純資産の部合計	18	296
			負債・純資産合計	1,382	335

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額	前 年 比	科 目	決 算 額	前 年 比
	金 額			金 額	
流动資産	1,350	330	流动負債	677	37
現金及び預金	4	▼12	未払金	168	39
未収入金	1,312	347	預り金	50	▼1
徴収不能引当金	△ 7	▼2	貸与引当金	159	▼1
貯蔵品	37	▼3	その他	0	0
その他	4	0	固定負債	687	2
固定資産	32	5	退職給付引当金	687	2
工具器具備品	234	10	負債の部合計	1,364	39
減価償却累計額	△ 202	▼5	純資産	18	296
車輛	2	▼2	元入金	232	52
減価償却累計額	△ 2	2	利益剰余金	△ 214	244
資 産 の 部 合 計	1,382	335	純資産の部合計	18	296
			負債・純資産合計	1,382	335

前年比3億3千5百万円増の13億8千2百万円、負債の部 合計は前年比3千9百万円増の13億6千4百万円となりました。
 前年比3億3千万円増の13億5千万円となりました。うち、現金預金は4百万円、未収入金は13億1千2百万円、貯蔵品は3千7百万円です。

機器備品の取得などで、前年比5百万円増の3千2百万円となりました。
 前年比3千7百万円増の6億7千7百万円となりました。うち、未払金は4億6千8百万円、預り金は5千万円、貸与引当金は1億5千9百万円です。

固定負債
 退職給付引当金は、前年比2百万円増の6億8千7百万円となりました。
 利益剰余金は2億4千4百万円が補填され、累積損失は2億4千4百万円となりました。

大学会計からの収益事業元入金は、5千2百万円増の2億3千2百万円となりました。
 利益剰余金は2億4千4百万円が補填され、累積損失は2億4千4百万円となりました。